

全国演劇鑑賞会連絡会事務局長

高橋武比古 様

質 問 状

ある差別発言とそれをめぐる貴組織の対応について質問致します。

2012年7月20日、代々木オリンピックセンターで開催された、日本新劇製作者協会並びに全国演劇鑑賞会連絡会主催、日本劇団協議会後援のシンポジウムにおいて、京楽座主宰中西和久氏が提起した「しのだづま考」をめぐり「四つの女の話やろ」という差別発言について質問致します。

中西氏が、『しのだづま考』の営業で、ある演劇鑑賞会に行き同作品の説明をした際に、岸貝（岸和田・貝塚）演劇鑑賞会の事務局長、有馬勇氏からそれは「四つの女の話やろ」と言われたということをお聞きしました。

この席上で中西氏は、演劇鑑賞会の「日本演劇の民主的発展」という理念とこの発言はどうか整合性があるのか尋ねられたようですが、有馬氏は「自らがその発言をしたが、差別をするつもりはなく『しのだづま考』はぜひ例会で取り上げたい作品である」と答えられたそうです。しかし、これは単なる言い訳にしかすぎず、全く回答になっていないと考えて改めて質問する次第です。

『しのだづま考』の根底にあるのは、同和問題であると思います。この問題の解決が国民的課題であることは何人も理解しているところです。そして、中西氏が提起されたようにこの発言は演劇鑑賞会の理念の根幹にもかかわる重大な問題であると存じます。

永年、市民劇場の一員として参加してきた者として看過できない問題であると考えます。

このシンポジウムに参加されていた事務局長並びに役員の皆様に、早急な事実確認と問題点の整理をお願いいたします。

記

一 『しのだづま考』をめぐり「四つの女の話やろ」という有馬氏の発言は、事実か。

二 事実だとしたらその差別性についてどのように考えられるか。

三 演劇鑑賞会の「日本演劇の民主的発展」という理念とこの発言は、どのような整合性があるのか。

以上三点について、下記代表者宛に十月十日までに文書でご回答を頂きたいと思っております。

ご多忙の中、甚だ恐縮ですが、市民劇場の発展のため極めて重要なことと思っておりますのでよろしくお願い致します。

敬具

2012年（平成24年）9月2

0日

『しのだづま考』の上演を支援する会

代表

角 敏 秀

〒 8 2 2 - 0 0 3 2

福岡県直方市下新入 2 4 5 8 - 5

支援者

加来 宣幸

小林 英一

西島 敏弘

樗木 武洋

児玉 律子

横山 賢一

蓑田 昌弘

村田 幸雄

外